

## 青少年海外派遣事業



## 国際社会にとり残されるのでは？

小川 努 (長塚・社会人)

「マレーシア」・「シンガポール」と聞いて、皆さんは何を想像するでしょうか？ 無知な私には、「東南アジアの常夏の国」と思い浮かべるのが精一杯でした。いざ、現地を訪問してみると、そこは、西洋と東洋の文化が調和し、高層ビルが立ち並ぶ、緑豊かな近代都市でした。

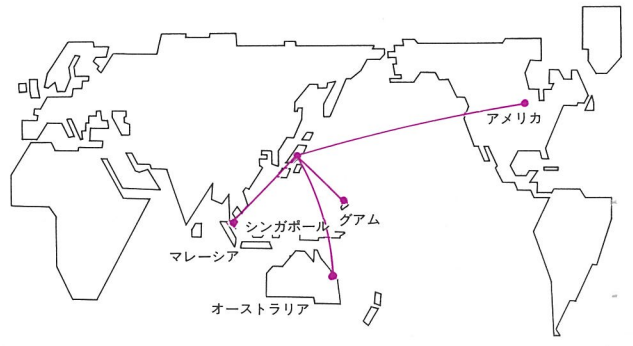
民族も、マレー系、中国系、インド系などが混在する、エキゾチックな多民族複合社会でした。中国系、インド系の人々は、十九世紀にイギリスの植民地支配を受けた時、鉱山開発、天然ゴムの栽培の労働者として入れられたそうです。

私達一行は、まず、マレーシアの首都クアラルンプールを訪れました。空港でまず感じたのは、多民族が共存しているということでした。そこでは、入国審査官という重要なポストにも、様々な人種の人が就いていて、閉鎖的な日本では、見られない光景でした。ここでは、市内及び近郊を観光後、日本人学校を訪問しました。

最後にこの研修を通じて、日本人はもっと「異人種を尊重する心」、「街の美化意識」、「積極性」を持つべきだと痛感しました。今のままでは、これからの国際社会から取り残されてしまうのではないのでしょうか。

ある日本人学校を訪問。広い校内、充実した設備、校長先生方の自発性を生む、自由をモットーとした教育方針等、日本の教育との差違をまざまざと実感した。夕食は、民族舞踊を見ながら、マレー料理を食することになった。全般的に、向こうの料理は香辛料をふんだんに使用している為、私たち日本人の口には…。まあ、

## 世界の



マレーシア国王宮殿前



浅野 由紀子

(入・社会人)

## 思い出に残る旅

8月21日、シンガポールマレーシア青少年海外視察研修旅行への出発。

3日目、クアラルンプールを発ちシンガポールへ。日本の夏とさほど変わり

人気第一位に上った最新鋭のシンガポール航空の飛行機に搭乗し、約7時間のフライトを終え、私たちは一路、シンガポール、チャンギ空港へ。飛行機を乗り継ぎ、一時間弱で今日の目的地であるマレーシア、クアラルンプールへと到着した。

4日目、マレー語で「平和と静けさ」を意味するセントーサ島では、大蛇を首にまとい、写真を一枚。何とも言えぬ感触が、今思い出しても不気味である。午後、私たちの旅のメインである、ボランティア団体との交流会が行われた。出発前は、少々重々しい行事のように思えたが、フタを開けてみると、各々片言ながらも何とか意思の疎通ができ、和やかな雰囲気の中

2日目、マレーシアにある日本人学校を訪問。

とうとう最終日の5日目日本へと…。

た教育方針等、日本の教育との差違をまざまざと実感した。夕食は、民族舞踊を見ながら、マレー料理を食することになった。

こうして4泊5日の旅は終わった。これから先、なかなか経験できない、私にとって思い出に残る旅の一つとなるであろう。

ま、自由をモットーとした教育方針等、日本の教育との差違をまざまざと実感した。夕食は、民族舞踊を見ながら、マレー料理を食することになった。

こうして4泊5日の旅は終わった。これから先、なかなか経験できない、私にとって思い出に残る旅の一つとなるであろう。

ま、自由をモットーとした教育方針等、日本の教育との差違をまざまざと実感した。夕食は、民族舞踊を見ながら、マレー料理を食することになった。

こうして4泊5日の旅は終わった。これから先、なかなか経験できない、私にとって思い出に残る旅の一つとなるであろう。